



## 麻酔の偉人たち：麻酔科学史に刻まれた人々

J. Roger Maltby編著；菊地博達，岩瀬良範訳。-- 総合医学社，2016.

REVIEWER

医学研究科社会健康医学系専攻  
M1

### 麻酔技術の確立に貢献された偉人を学ぶことのできる、コンパクトな良書です

この本は麻酔学史の偉人78名の業績や生き立ちを記したコンパクトな書物です。本書を通じて、医療現場で遭遇する偉人の名称がついた器機や用語に一步理解を深め、親しみを覚えてほしいと思います。新生児領域で用いるアプガースコア、救急領域で用いるマッキントッシュ喉頭鏡ブレードやマギル鉗子、循環器領域で用いるスワン・ガンツ・カテーテル等、名称に強烈なインパクトがあるので、「聞いたことある、見たことある」名称の偉人から読んでみるのも良いかもしれません。

偉人78名中、私が特に注目して読んでほしいのはやはり日本国内の2名、青柳卓雄と華岡青洲です。もともと原著には書かれていませんでしたが、翻訳の段階で国内からの偉人2名が追加された経緯があります。

青柳卓雄はパルスオキシメーターの原理を発明した現役(1936年生まれ)の研究者です。当時の勤務先であった日本光電から「ユニークなもの」の開発を指示され、動脈血拍動成分の色素情報を活かすことで連続酸素飽和度の測定の可能性を見出し、耳朶(みみたぶ)でSpO<sub>2</sub>(酸素飽和度)を測定する装置を開発したのです。医療現場で何気なく目にする(医療ドラマERシリーズにも当然のように出てきます)パルスオキシメーターが日本人の発明によるものだと知った時は、本当に日本人であることを誇りに思えたものです。

(裏へ続きます)

494

24

Ma 39

医図開架

⇒⇒⇒

華岡青洲は世界で最初に全身麻酔を行った外科医です。今から200年以上前、1804年10月13日に経口麻酔薬「麻沸散」を用いた全身麻酔を成功させています。本書では触れていませんが、この10月13日は日本麻酔科学会が「麻酔の日」に制定しているくらいですから、いかに日本の麻酔史に大きく影響を与えた人物であるかが分かります。

本書は、医療現場に出て間もない学生さんへは偉人の名前を斜め読みする入門書として、また麻酔科を専門に勉強する医療従事者へは深い知識を得るヒントとなる一助として活用していただきたいと思います。一人の偉人の生い立ちや研究人生の歩みが3～5ページにコンパクトにまとめられていて、貴重な資料の写真も挿入されています。偉人の名前と共に、資料写真から質の高い学習をしていただける書物であると確信しています。

受理：2017-01-13